

1. DO 文

1.1 DO 文と IF 文

- (ア) ・ THEN が抜けている -1 点
・ IF 文中、ピリオドがカンマになっている -1 点
・ I が S となっている 不正解

1.2 DO 文の説明

- ・ I が 2 から 100 まで 2 ずつ増やしていく -2 点 説明不足

1.3 DO 文の誤り

- (3) ・ I に実数が入っている 不正解
・ ピリオドを使っている 不正解

1.4 DO 文の実行

- ・ 数字の順序が逆 不正解

2. 配列

2.1 配列の説明

- (1) ・ 添え字と () を使っている点 -3 点 文章になっていない
・ 配列を使うと普通の変数のように何個も書く必要がない -3 点 説明不足
・ 宣言の書き方 -4 点
・ 配列のサイズの説明の間違い -2 点
・ 配列は同じ入れ物を何個も用意することが出来る。 -3 点 説明不測
- (2) ・ 配列を好きなときに呼び出せる -3 点
・ たくさんの変数を使わなくても済む 説明不足であるが減点はしない
・ 一度にたかさんの変数を用意できる 説明不足であるが減点はしない
・ 番号をつけて 1 回で出力できる -5 点
・ たくさんの変数を出せる -2 点
・ A(1:1000) とするだけで、A(1) ~ A(1000) までできる。 -3 点
・ 配列は A(10000) のようにまとめられる -3 点
・ たくさんの変数を宣言できる -3 点
・ 1 行で少なく書くことができ、分かりやすい -3 点
・ プログラムを短く出来る -3 点
・ (1) と同じことが書いてあれば、正しくても、片方は 0 点

2.2 配列の宣言

- ・ D(0~3) 解答としてよくないが、減点無し

2.3 データの代入

- (1) ・ (A(100)=2003) としている場合 -1 点
(2) ・ A(200) まで代入している場合 -1 点

2.4 データの取り出し

3. 書式出力

- ピリオドとカンマの間違い -1 点
- FORMAT 文の文番号が無い -1 点

4. FORTRAN プログラム

- 配列の宣言 1 点
- READ 文 1 点
- 入力が偶数の処理 $M = (N+1) / 2$ 2 点
- 配列に代入 5 点
- 配列から呼び出して和の計算 5 点
- 書式付 WRITE 5 点
- STOP END 1 点

- 配列名と変数名が同じ -5 点
- READ と偶数処理の文は正しいが順序が逆 -2 点
- DO 文のカンマがピリオドになっている -2 点/DO 文
- DO 文の $I=1$ が I になっている -2 点/1 箇所
- DO 文の $I=1, M, 1$ が $I=1, N, 1$ -2 点/1 箇所
- DO 文の $2*I-1$ が $2*M-1$ -2 点/1 箇所
- WRITE 文の $2*M-1$ が $2*N-1$ -2 点
- WRITE 文の $2*M-1$ が $2*I-1$ -2 点
- WRITE 文の $2*M-1$ が N -2 点
- WRITE 文の $2*M-1$ または S が無い -2 点
- WRITE 文の $2*M-1$ と S が無い -3 点
- FORMAT 文の $I5$ が $5I$ -1 点/1 個
- FORMAT 文の文番号が無い -2 点
- FORMAT 文中のカンマが無い -1 点/1 個